

# うぶすな

～ふるさとを見る・知る・探す!～



版画：岩田健三郎氏 (巖橋)

第3号

## ふるさとを学ぶ

総合研究大学院大学  
学融合推進センター 特任助教

渡部 鮎美

民俗学は人から話を聞く「聞き取り」と、一緒に仕事や行事を体験しながら観察をする「参与観察」を研究手法としてきました。聞き取りや参与観察は一朝一夕では上達しません。また、人に話を聞くには、この人になら話をしてもいいと思われるような人間関係を育てていかなければなりません。そして参与観察には、観察眼を鍛えていく必要があります。

昨年4月に福岡町は「柳田國男ふるさと賞」を創設しました。この賞は町内の小・中学生を対象に町の歴史や文化について聞き取りなどの方法で調べた作品を募集し、表彰するものです。

子どものころから聞き取りに親しむことで、子どもたちは、どのように話をしたら聞きたいこと話してもらえるかを考えるでしょう。そして、参与観察をすることで、体験してみるこの大切さに気づくでしょう。ふるさとについて学ぶことは単に地域のことを知ることでありません。子どもたちは地域について調べるなかで様々なことに気づき、考え、成長していくのです。

## 映丘の魅力

姫路市立美術館学芸員

平瀬 礼太

義経を守るため、身を挺して矢表に立つ佐藤継信。この「矢表をはじめ、松岡映丘は歴史物語の描写を得意としました。

「古典に立脚して現代に生きよ」とは映丘が常に語った言葉です。古典を徹底的に学習しながらも、それをどうしたら現代に活かすことができるのか、それが彼の永遠のテーマでした。

そんな映丘の作品の見どころを挙げてみましょう。

1 ドラマティックな演出

やや判官びいき気味に歴史のヒーローを劇的に描き出します。

2 艶やかな色彩美

王朝時代から抜けだしたような華やかな色彩と品格高い描写は他の追随を許しません。無駄な動きを省き、静的ながら緊張感に満ちた画面を構成しました。

3 モダンな感性

懐古趣味と見えて実は新しい美術・映画・文学動向に目を光らせ、新感覚のロマンティックなシズムを開花させました。

そして豊富な古典の知識に基づいた深い洞察、細部へのこだわりも見逃せません。こんな魅力溢れる映丘の表現をぜひ堪能していただきたいと思えます。

# 神崎郡歴史民俗資料館

旧神崎郡役所／兵庫県指定文化財



神崎郡歴史民俗資料館と柳田國男・松岡家記念館では、「福崎の暮らし」を両館共通のテーマとした特別展を開催しました。

平成25年度  
特別展

## 福崎の暮らし ～米づくりと人々～

資料館では、米づくりを中心に、暮らしのなかで使われてきた農具や民具を展示しました。また、絵馬や当町より出土した遺物をとおして人々の暮らしを紹介しました。

### 四季農耕図絵馬

寺社に奉納された絵馬には、豊作への祈りや感謝をこめて制作されたものがあります。それらは、牛が耕作するようすや農具を用いた人々の姿が詳細に描かれており、おかしの農耕を伝える貴重な資料です。



神河町埋田神社 四季農耕図絵馬

### 米づくりと農具

米づくりに関する農具は、種類も豊富でおかしはどの家庭にもありました。

唐箕は、粉の選別に欠かせない農具です。機械化が進む昭和中期ごろまで使用されていました。ハンドルを回すと内部の風車が回転し、その風力で粉殻や屑米を飛ばすことができます。唐箕による粉の選別は、風の力を使って行うことから、「風選」とも呼ばれます。



唐箕

### ふくさき歴史体験隊

ふくさき歴史体験隊とは、小学5、6年生を対象とした活動で、地域の歴史や文化財を活用し、さまざまな体験をとおして郷土の歴史文化を学びます。本活動は、ボランティアの方々や地域の皆さまに支えられ、本年度20周年を迎えました。



第3回活動「土器づくり②」

### 次年度の予告

次年度は、4月に企画展を行います。収蔵資料のなかから、養蚕にまつわる道具を取り上げます。7月には、辻川山演奏会も予定しています。

そして、10月からの特別展では、福崎町にある身近な古墳を、出土遺物とともにご紹介いたします。

皆さま、ぜひご来館ください。

### 今年度の報告

資料館では、皆さまの知的好奇心を満たす施設となることを目指し、今年度は「地域の歴史文化遺産を楽しもう」をテーマに5回の連続講座を、8月からは2回にわたって古文書講座を開催しました。

そして、1月には、町内の小学3年生を対象に校外学習授業を行いました。児童たちが、農具の使用体験などをし、「むかしの暮らし」を学びました。

こうした教育普及活動を含め、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターと共同し、福崎町の地域歴史遺産の掘り起しや地域資料の保全・活用を進めています。

# 柳田國男・松岡家記念館／ 柳田國男生家

柳田國男生家／兵庫県指定文化財



## 福崎の暮らし ～柳田國男が集めた民俗語彙～

平成25年度  
特別展

記念館では、柳田國男が民間に伝わってきた言葉である民俗語彙を集める過程を紹介し、民俗語彙に込めた國男の想いをお伝えしました。

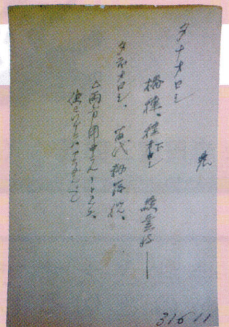
國男は民俗学という学問をつくり上げていく中で、方法論を考える資料の一つとして民俗語彙を選びました。そして、全国の言葉を集め、その分布や地域差から暮らしの歴史を考えていこうとしました。

### 民俗語彙と分類語彙

「民俗語彙」とは、地方名・方言と言い換えることができる、民間に伝わってきた言葉です。

國男は民俗語彙を全国的に集め、言葉の意味、関わる事柄を記して並べたものを「分類語彙」と称しました。

分類語彙を集めた語彙集は、昭和10年(1935)より14冊刊行されました。分類別に挙げると、産育習俗、婚姻習俗、葬送習俗、農村、漁業、禁忌習俗、歳時習俗、居住習俗、服装習俗、山村、族制、児童、祭祀習俗、食物の語彙集があります。



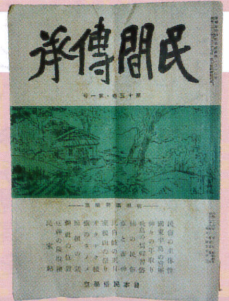
『分類農村語彙』  
直筆原稿

### 雑誌による呼びかけと応答

國男と民俗学を学ぶ人々との交流の場となっていたのが、雑誌でした。

國男は、雑誌の誌面で読者に暮らしにまつわる習俗や言葉を教えてくれるよう呼びかけをしました。

その中でも雑誌『民間伝承』では、すでに刊行されていた分類語彙集の目次に簡単な説明を加えたものを掲載し、民俗語彙を教えてくれるよう、呼びかけました。そして、この呼びかけに応じた読者が間違いの指摘や新たな民俗語彙の報告を寄せたのでした。



雑誌『民間伝承』

### 次年度の予告

次年度は、松岡家の長男である<sup>かなえ</sup>松岡の没後80年の節目の年となります。

記念館がある辻川山には松岡家五兄弟の石像を設置した学問成就の道ができました。10月には松岡家五兄弟の業績をお伝する特別展を行います。そして、8月には第35回山桃忌と第1回柳田國男検定を開催します。

皆さま、ぜひご参加ください。

### 今年度の報告

記念館では、松岡家五兄弟の業績を伝え、民俗学の顕彰を図るために、さまざまな展示や行事を行いました。

4月には企画展「松岡映丘画稿展～映丘が描く武者絵～」、8月には播磨国風土記編さん1300年を記念した、第34回山桃忌(エルデホール)、紙芝居「柳田國男と鈴の森神社」(柳田國男生家)を行いました。そして、11月には第32回日本民俗学会研究奨励賞 福崎町賞を受賞された渡部鮎美氏による講演、さらに伊勢大神楽公演(11月)、岩田健三郎氏による版画教室(12月)を開催しました。

多くの皆さまに足をお運びいただき、本当にありがとうございました。

# 柳田國男生家茅葺き屋根修理工事と資料紹介

平成25年度に兵庫県中播磨県民局の地域の夢推進事業の補助を受けて、柳田國男生家の茅葺き屋根修理工事を行いました。

柳田國男生家は、昭和47年(1972)に兵庫県重要無形文化財に指定されました。この指定を受けて、柳田國男が過ごした当時の間取りに復元し、現在地(記念館隣)に移築されました。

今回は、茅葺き屋根を「差し茅」(差し屋根)という方法で、職人による手作業での修理が行われました。

まず、茅を引っぱり出し、傷んだところを切り落とし、補充する新しい茅を差し入れます。そして、全体をたたき、形を整え、仕上げにはハサミで茅を刈り込みます。また、茅を支える竹や縄の補強も



新しい茅を差し入れる作業



茅葺き屋根修理工事が完了した柳田國男生家

行いました。

多くの皆さまに、柳田國男生家をご覧いただければと思います。

さらに記念館では、松岡家と柳田國男の業績を伝えるための資料の収集と整理を行っています。今年度、2名の方から計1,177

7点の書籍資料の寄贈を受けました。おかげさまで、民俗学の研究に關係する書籍や雑誌、兵庫県を中心とする地域の調査報告書や県市町村史、辞書・事典など多岐に渡る資料が集まりました。

このような貴重な資料を活用していきたいと考えています。

## 松岡映丘没後75年

映丘は、昭和13年(1938)に58歳で生涯を閉じたことから、平成25年(2013)は没後75年目の節目の年でした。

映丘は、大和絵の復興のために尽力した画家でした。映丘は、古典文学を題材とした武者絵や絵巻物、自然を日本古来の色で描きました。

記念館では、映丘の作品の中でも下書きにあたる画稿を所蔵しています。そのため、色彩がある作品は少ないのですが、鉛筆や筆による繊細な表現と試行錯誤の過程をご覧いただけます。平成25年度には、計4点を軸装と額装にする補修を行いました。そして、映丘の色紙「春の図」1点の寄贈を受けました。この作品から映丘の色使いを知っていただけます。

これからも映丘の作品の補修を行いながら展示し、その魅力をお伝えします。



松岡映丘作「春の図」

## 編集後記

平成25年度に、記念館では柳田國男生家の茅葺き屋根修理工事を行いました。國男が『故郷七十年』で「日本一小さい家」と記した生家が装いを新たにすることで、これからも國男の想いと松岡家の歴史を伝えていきます。

そして、歴史民俗資料館では、歴史体験隊が20周年を迎えました。福崎町内の多くの小学生が郷土の歴史を体験しながら学んできた活動の積み重ねを実感しました。平成26年度も、両館ともにさまざまな展示・活動を行い、新たな歴史を紡いでいきます。ぜひ、両館に足をお運びください。お待ちしております。

## うぶすな 第3号

平成26年3月20日発行

福崎町立柳田國男・松岡家記念館

〒679-2204

兵庫県神崎郡福崎町西田原

TEL 0790-22-1000

### ◆ 休館日

月曜日(祝日は開館)

祝日の翌日(土・日は開館)

12月28日～1月4日

### ◆ 開館

午前9時～午後4時30分

(入館は午後4時まで)